

第2回総合教育会議会議録

1. 日時：平成31年3月26日（火）
午後4時10分から午後5時まで
2. 場所：平戸市役所 市長室
3. 出席者：黒田市長、小川教育長、筒井委員、戸田委員、久家委員、宮崎委員
 - (1) 事務局
松田総務部長、鴨川総務課長、松本主査
 - (2) 教育委員会事務局
岡教育次長、大畑理事兼学校教育課長、平松教育総務課長、岩永生涯学習課長、森川平戸図書館長、山口参事兼指導主事
4. 協議事項
平戸市立学校等適正規模・適正配置の状況と今後の取組み（方針）について
5. 議事の概要
平成31年度以降の取組み方針について確認した。
6. 会議経過
 - 開会
 - 総務部長
それでは、只今から第2回平戸市総合教育会議をはじめたいと思います。
最初に、市長からご挨拶をお願いいたします。
 - 市長
年度末の大変あわただしい時期にお集まりいただき恐縮しております。
先程は、民間私塾の講師のお話を聴いて、いろいろと参考になったと思います。それはそれとしてご理解を深めるいい機会になったと思っております。その後、予定されている協議事項に即して、いろいろな報告事項、協議事項を重ねていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。
 - 総務部長
それでは、続いて教育長をお願いいたします。
 - 教育長
市長には、大変、年度末のお忙しい中に総合教育会議を開いていただき有難うございました。今日は、大変刺激的なお話をいただいたわけですが、このようにお互いに市長と教育委員会が教育に関して、同じ目線で情報を共有しながら進めていくことが、この会議の目的であろうと思っております。委員の皆さんには、遠慮なく思いのたけを議論していただければと思います。
 - 総務部長
それでは、本日は議題を1件、用意しておりますので、協議事項につきま

しては市長により進行をお願いいたします。

○市長

それでは、今日の議題は「平戸市立学校等適正規模・適正配置の状況と今後の取組み（方針）について」ということですので、学校教育課から説明をお願いいたします。

○学校教育課長

第1回目の総合教育会議においても、この内容について説明しましたが、平成30年度を経て平成31年度取組み予定ということも含めて説明いたします。

まず、平成30年度についてですが、学校等適正規模・適正配置の状況ということで、平成30年度は中野小学校、田平南小学校この2校が複式学級を有する学校ということでしたので、説明を行っております。両校とも保護者、地域の方のご意見としては、地域の特色を生かしながら学校を存続させたいということでありましたので、保護者・地域の意見を聴いて、説明をもって終わりと考えております。

平成31年度取組み予定としては、まず、1点目は平戸幼稚園についてです。

平戸幼稚園については、基本方針の中で認定こども園が設置されるときに閉園を検討するものとするという内容に基づいて行います。平成30年4月にみのりこども園、しおかこども園がともに幼保連携型こども園が設置されました。その後の入園の状況を見ますと平成30年度入園時、年長児7名、年中児7名、途中入園が2名、平成31年度入園時の見込みとして年長児5名、年中児3名、途中入園が1名見込みありと聞いております。その下の表ですが、現在年中児が7名おります。年中児7名のうち2名の保護者が転居されるということで、平成31年度の年長児が5名でスタートします。平成30年度に途中入園の2名がいましたが、この途中入園児が年少児という年齢になりますが、その2名と新たに1名が入って、入園時には3名の年中児が入ります。つまり4月入園時には年長児5名、年中児3名でスタートしますが、5月頃に途中入園が1名ある見込みだと幼稚園から聞いております。これが平成31年度の状況です。

このような状況から、閉園について具体的な検討に入っていかなければならないと思っております。

平成31年5月までに保護者のほか、平成25年5月に存続の陳情に来られた方々がございますので、その時の代表者、例えば守る会の代表であるとか、歴代の育成会長とか、平戸区区長会長もその時来られておりましたので、そういう方々を対象に状況説明の場を設けたいと思っております。

平戸幼稚園については、以上です。

○市長

これまでの説明で、ご質問とか確認することはありますか。
私からいいでしょうか。

2名転居っていうのは、家ごと転出していくということですか。

○学校教育課長

お仕事の関係で転出されます。

○市長

わかりました。

同時に新年度から引っ越してくる可能性というのは、情報として反映されてないということですか。あるかもしれないと考えてもいいですか。

○学校教育課長

ほぼないと思っております。

○市長

ほかにありますか。

なければ野子中学校について説明をお願いします。

○学校教育課長

野子中学校については、昨年度、3回、学校統廃合について説明を行いました。その時は、野子小中学校ということで説明してまいりました。その時点では、野子小中学校については統廃合しないということで話は終了しておりました。

野子中学校に特化して見ると平成31年度の入学生はおりません。6年生が今2人おりますが男子がサッカー部に女子がブラスバンド入部希望ということで南部中学校に入学をするためです。つまり、平成31年度は中学3年生と2年生の2学級になります。

次に、平成32年度ですが3年生と1年生の複式学級になる可能性があります。

複式学級になるのは、2つの学年で8名となった場合です。平成32年度の3年生が4人、それと組むのが現在の小学校5年生ですが、今5人います。今の段階で南部中学校に2人行くということで話があるみたいですので、平成32年度の1年生と3年生で7人ということで複式学級になり、野子中学校が1学級になってしまいます。

1学級になると国で定められた教職員定数により教頭の配置がありません。1学級の場合は、教諭が4人しか配置されません。先生が4人ということは、例えば、国語、数学、英語、理科の4人の教諭がいたら他の教科はこの4人が免許外で教えなければならない。そういう状況になります。

そういうところがあるので、前回で話は終わっておりますが、平成31年度の状況、平成32年度の状況、その場合の教職員の状況等を説明しなければ平成32年度になって「自分たちは知らなかった」ということが想定できるので、統廃合ということとではなくて説明をして、後は、保護者の方や地

域の方に考えていただく場を作る必要があると考えております。

○市長

何かご質問等ありますか。

生徒の中には、サッカー部とブラスバンド部が理由だということで、南部中に行く、それを選択できる家庭がある。それを選択しない家庭は、何かこう拘りというか、そこに居続ける何らかのインセンティブは何に求めているんでしょうか。

○学校教育課長

今年の小学校6年生は、ブラスバンド部に行くと言いましたが、そこのお母さんは、去年の4月か5月の早い段階で指定学校変更についての相談に来ました。2人いるうちの1人がサッカー部で南部中に行くので、1人だけだったら野子中学校に行っても刺激がないので、そういうことであれば南部中に行かせたいのでブラスバンド部は存続していますかという相談でした。

○市長

1人になるくらいだった南部中に行きたいということですか。

○学校教育課長

そういうことです。それが今の6年生の例です。今、指定学校変更で野子中学校から行っているのは、ほとんど男子が行っておりますが、男子の場合はサッカー部が野子中学校にないということで部活を理由にして行きます。再来年度はじめになったらバレー部もできないような状況になるので、もしかしたら指定学校をバレーをやりたいのでという理由で南部中学校に行く生徒も出てくるのかもしれませんが。

○市長

要するに、それは生徒の家庭の財政的な理由とか通学の手段がないから行かないって言う理由じゃなくて、究極、部活がなければ南部中に行く可能性は十分あるよということですか。

○学校教育課長

そういうことです。ちなみにバレー部は今、1年生と2年生でチームを組めるんですけど、来年、中総体が2年生と3年生で組んで行けるので、中総体まではできますが、その後がなくなるので、今の1年生がバレーができなかったら、もしかしたら指定学校変更も可能性があるのではないかと思います。

○市長

つまり、教育サービスはどこでも受けられるので別に不満はないけど、部活を通して中学生生活をキチンとしたものにするには、ここじゃダメだという話ですか。

○学校教育課長

そういう話です。

○市長

部活が原因ですよね。

○教育長

野子中学校のような小規模校になると駅伝大会から中総体まであらゆる競技の選手にならざるを得なくなってしまう。苦痛を感じる部分もあるんじゃないでしょうか。普通だったら選ばれない人がそこにいると選ばれてしまう。ある程度の規模がないことには、なかなか厳しいのかなという気がしております。ただ、実際にそういう状況が見えている段階で協議し、結果として5年間ぐらいは統廃合はないですよと言ってきたんです。ここでもう一度、我々から統廃合を進めるというよりも保護者の皆さんの中から統廃合の選択肢を進めていただければと思っております。

今、通っている生徒のためにも、スクールバスなどにより教育環境としてはよくなります。そういった考えから、一度は見送ったものの柔軟に対応する必要があると思っております。

○市長

将来像を明確に伝えることが大事で、判断は教育を受けさせる義務を負う親であり、そういった立場にある人たちの判断に寄りますね。

部活はさて置き、ちゃんとした教育が保証できるかというときに、教員が足りないとなったら、さっきの私塾のタブレット持って来いとなるかもしれないけど、部活って大事ですよ。現状は、よく分かりました。

○総務部長

総務部から人事管理上、職員配置のことを考えると平戸幼稚園について、話を申し上げますと平成31年度中に閉園ということであれば、任期付きの先生も平成31年度で終わりますし、人員配置を考えれば新たな採用もしなくていいということもあるものですから。

○教育長

本来、学校であれば卒業するまで待つのが普通の考え方であると思います。年中児が卒園するまで。ただ、年中児を3人だけ残して親がそこに通わせるかというのも選択肢として難しいのかなと思います。だから、ここは協議が必要でしょうね。

○総務部長

受け皿もすでに出来てますしね。

○市長

守る会、歴代育成会長等の感触って何か聞いてますか。

○学校教育課長

昨日、守る会の会長がお見えになりました。最初は、守る会に言わずに閉園を決定しているみたいな誤解で来られたんですけど、「我々は、あくまで

議会には方針として説明させていただきました。また、教育委員会でも閉園に向けた議論はさせてもらいます。」と話しました。実際どうなるかは学校と同じで閉園が認められない場合もありますので、議論しますよという話しもしました。あくまでも歴史ある幼稚園で、人形も含めて、足跡的なものを残していくという議論が今から先必要なのかなと思っています。いずれにしても、こういった方々と、陳情が上がっている以上は協議したいと思っています。

○市長

具体的な意思の表明をしている守る会や歴代育成会長というところの意向は大事ですし、もちろん歴史や伝統というのを守り続けていきたくて、それを達成する場なのかどうかをもう一回、それよりもむしろ幼児教育の場としてどうなのかという本質を少し磨き上げていかないと、何のための施設なのとなってしまいますから。エレンCとか残された大事な宝物は、ソフトにしろハードにしろ受け継いでいく方法を別に考えていかなければならないと思います。野子中学校についても中学校は先が回らない。小学校とかその地域にどれだけの子供がいるかによって、想定は見える訳ですし、今通わせてる保護者や通っている生徒がどう気持ちなのかが一番大事かなと思っています。これはここで結論を出すというよりも報告を受けて確認しあうということによろしいでしょうか。

○教育長

そうですね。

○市長

つぎに、大きな2番について説明をお願いします。

○学校教育課長

今ある基本方針については、平成32年度までで複式学級がある学校についてはというところがあるので、一応平成32年度でこの基本方針は一定、説明したり協議をしたりということは終わりということで整理をしたいと考えております。それで、平成31度、教育振興計画策定作業もありますけれども、例えば、義務教育学校の設置について検討するとか、まちづくり協議会などとの連携を踏まえた学校づくりの在り方も少し入れたらどうかと考えております。

○市長

いいと思いますよ。

○学校教育課長

具体的には、教育振興計画を作るときにこう言ったことも一つの視点として考えていきたいと思っているところです。

○市長

ぜひ、時代のニーズというか当然考慮しなければならない部分は組み込

んでいただきたいと思います。さっきは、いみじくも私塾の取組みを色々聞いて、学校はある意味、同じ年代に生まれた子供を一つのクラスで育てていくという、そういう括り方なんだけど、能力に応じた括り方ができない学校を、学校の補完機能として、もし私塾が能力別に対応しますよ、というのであれば学校も助かりますよね。そこは、どこまで書き込むかは別にしても私塾との連携というのにはある意味、平戸市の青少年をどう育成するかというときに重要な観点かもしれませんね。義務教育は、やはり公教育だというのが明治時代からの前提で来ているので、私塾は金もうけ主義でしょと言われて久しいんだけど、もうそう言ってる場合じゃなくなっているかもしれないし、同じ年に生まれた子でクラス編成しますと言ってる建前がどこまで及ぶのかというときにどっかで歪が来たらそういった力を借りるのも手かも知れないですね。前向きな意味で。

それを今度高校でやろうとしてますよね。経済的に遠くの高校や進学校に行けない子が、仕方なくもし、平戸高校に行ってるとしたらさに非ずと平戸高校で十分人生設計できるぞとか、同じ漁師になるにしてもパソコンが使える漁師になるぞとか、そういう先が見えるような教育機関にしようというのが、今回の公営塾の趣旨なんですね。公立高校の中に民間私塾が入って子供たちの先々を照らす役目になるとしたときに、中学校、小学校の舞台はある意味今ある私塾と学校現場が組むということも有かなと思います。言ってみれば平戸式の民間私塾との連携というのを実現できれば、それが子供にとって、先生にとって良ければ、非常に良いと思います。

○教育長

個別の計画をこれまで委員会などを作ってやって来たんですけど、適正規模・適正配置方針も含めて、教育の方向性を示す教育振興基本計画の中にしっかり書き込んで行くというスタイルに改めていきたいと思っています。

○市長

わかりました。それでは今日の議論はこれで閉じていいでしょうか。では、第2回の平戸市総合教育会議を終了したいと思います。